# 新潟県立がんセンター新潟病院
# 内科専門研修プログラム

2027 年度版

新潟県立がんセンター新潟病院
臨床研修管理委員会

# 新潟県立がんセンター新潟病院

# 内科専門研修プログラム・特徴と概略

## 【はじめに】

いまや悪性腫瘍疾患は日本人の死亡原因第一位の極めて重要な common disease のひとつとして位置づけられており、その診断、治療、さらには緩和医療を含めた総合的医療体系の確立は世界的な重要課題である。

悪性腫瘍疾患の種類は極めて多彩かつ症例数は増加しているが、人口の高齢化と共に生活習慣病を合併した症例が決して稀ではなく、従来のいわゆる一般内科の基礎および専門知識を兼ね備えた腫瘍内科医の需要は極めて大きい。すなわち、従来の臓器縦割り的診療体制では多様化する悪性腫瘍症例に対する充分な対処は不可能であり、各臓器別専門知識に加えて日本臨床腫瘍学会が提言しているような臨床腫瘍内科学の概念の理解と診療への導入が不可欠な時代となっている。

## 【特　徴】

1. 当院には、長年の日本内科学会認定教育病院としての実績があり、本プログラムは内科専門医研修制度に対応する。
2. 当院は、全国がんセンター協議会加盟病院、地域がん診療拠点病院、日本臨床腫瘍学会認定研修施設であり、本プログラムは臨床腫瘍学会専門医制度にも対応可能である。
3. 当院の内科各サブスペシャリティは関連学会の認定施設であり、内科各サブスペシャリティの専門医制度に対応する。
4. 当院内科のみならず、新潟大学医歯学総合病院、魚沼基幹病院という総合内科研修が可能な施設および地域医療研修に最適な新潟県立病院（新潟県立中央病院、新潟県立津川病院）と連携することで、研修プログラムの強化が図られている。

## 【目　的】

1. 初期臨床研修を修了し、内科、特に腫瘍内科の専門医を志す医師が、新潟県立がんセンター新潟病院内科、新潟大学医歯学総合病院・魚沼基幹病院および新潟県立病院群において内科専門研修を行うことで、日本内科学会専門医を取得し、さらに各分野専門医（日本血液学会、日本呼吸器学会、日本消化器病学会など）および日本臨床腫瘍学会専門医の取得を目指す。
2. 内科専門研修中に臨床腫瘍学に関連した課題を見出して研究を行い、内科医として主要な疾患に対応できるとともに、内科各分野および腫瘍内科専門医として必要な知識、技能、態度を修得し、将来にわたり専門領域で情報交換と生涯学習できる医師の育成を目指す。

## 【研修プログラムの概要】

本プログラムは、3 年の内科専門医研修プログラムであり、

1. 内科分野研修として、臨床腫瘍内科学の基礎となる各分野の腫瘍性疾患の臨床研修を当院の内科 3 分野で実施する（研修期間：1-1.5 年）。
2. 新潟大学医歯学総合病院・魚沼基幹病院において、救急診療、内科各分野診療研修を実

施する（研修期間：2.と 3.合わせて 1.5-2 年）。
3. 新潟県立病院（中・小規模一般病院：県立中央病院、県立津川病院）にて一般内科研修・地域医療・在宅医療研修を実施する。（研修期間：2.と 3.合わせて 1.5-2 年）。

で構成されており、各病院の研修時期については、研修開始後・研修中に専攻医と協議の上、臨機応変に対応可能である。
しかしながら、基幹病院である新潟県立がんセンター新潟病院での内科研修は、よりがん診療中心の専門研修が予想されるため、連携施設での研修期間をなるべく 2 年とすることが推奨される。
具体例を下表に記す。

<table>
<tr><th>卒後</th><th>Aコース</th><th>Bコース</th><th>Cコース</th></tr>
<tr><td>3年目</td><td rowspan="2">新潟県立がんセンター新潟病院</td><td>新潟大学医歯学総合病院</td><td rowspan="2">魚沼基幹病院</td></tr>
<tr><td>新潟県立中央病院</td></tr>
<tr><td>4年目</td><td>新潟大学医歯学総合病院</td><td rowspan="2">新潟県立がんセンター新潟病院</td><td>新潟大学医歯学総合病院</td></tr>
<tr><td>5年目</td><td>魚沼基幹病院</td><td>魚沼基幹病院</td><td rowspan="2">新潟県立がんセンター新潟病院</td></tr>
<tr><td>6年目<br>以降</td><td>県立津川病院</td><td>新潟県立がんセンター新潟病院</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">大学病院医員、大学院での基礎研究、県立病院内科スタッフなど</td></tr>
</table>

## 《1. 新潟県立がんセンター新潟病院　内科における研修：1-1.5 年》

各自の将来の希望専門分野に応じて下記の 3 部門から 1-3 部門を選択するが、内科専門研修という研修目的を達成するために、なるべく多臓器にわたる悪性腫瘍症例の治療研修を実施する（1 部門のみの研修を避けること）。

### 1）血液・化学療法部門

血液悪性腫瘍に対する化学療法
造血幹細胞移植療法
　自己末梢血幹細胞移植、同種造血幹細胞移植、非血縁者間骨髄移植、臍帯血移植など、全ての造血幹細胞移植が可能（認定施設）
分子標的療法
臨床試験と新規抗癌剤の治験
固形腫瘍に対する化学療法、造血幹細胞移植療法、分子標的療法
化学療法に伴う有害事象の早期診断と対策
終末期症例に対する緩和ケア治療

### 2）呼吸器内科部門

日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、
呼吸器疾患の診断、治療、コンサルトが可能となるよう研修する
胸部画像診断に習熟する
気管支鏡による診断と治療を習得する
人工呼吸器管理技術の習得
肺癌を主とした呼吸器悪性疾患の予防、診断、治療の研修
　肺癌の早期発見（肺癌 CT 検診の実際）、切除不能肺癌の化学療法（臨床試験と新規抗癌剤の治験など）、放射線療法、分子標的療法
化学療法に伴う有害事象の早期診断と対策
終末期症例に対する緩和ケア治療

### 3）消化器内科部門

日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定施設、日本大腸肛門病学会認定修練施設として専門医からの指導を受ける
肝胆膵を含む各種消化器疾患に対する診断と治療の修得
上部および下部消化管の内視鏡検査による診断と治療の修練
各種消化器癌に対する化学療法、動注治療、局所治療の修得
化学療法に伴う有害事象の早期診断と対策の研修
終末期症例に対する緩和ケア治療の実際

当院の各内科部門は非常に多数の症例の診断、治療を実施しており、臨床経験の必要な症例の受け持ちが可能である。また、当然のことながら臨床腫瘍学会認定施設であり、種々の悪性腫瘍症例の治療に携われるため、新潟県内で腫瘍内科学を研修する上では最適の研修施設である。さらに、主な内科専門研修としてではないが、循環器内科、内分泌・代謝内科の専門医・指導医も常勤しているため、様々な生活習慣病を合併した症例の診療研修が十分可能である。

**《2. 新潟大学医歯学総合病院・魚沼基幹病院における研修（2.3.合わせて 1.5-2 年）》**

新潟大学には臓器別内科、総合診療内科、神経内科があり、各臓器別診療を行っている。大学病院での研修は以下の特徴を有する。

なお原則として、4 内科のうちから 2 内科を選択し、6 ヶ月ずつ研修するが、希望によって単独科での研修も可能である。

1) 症例数は限られるが、各分野における特殊な症例、難治症例などの入院が多く、複雑な診療体系を習得するのに適している。
2) 少ない症例にも中堅医師、上級指導医などが主治医団として配置され、かつ教授回診・助教授回診などを経験できるため、臨床病院とは異なった考え方、アプローチの仕方を習得できる。
3) 医局内・大学内での数多くの検討会や講演会などを経験可能であるため、自分の専門分野以外や基礎研究などに触れることが可能である。
4) 救命救急診療の研修が充実しており、この研修期間での研修が重要である。

**《3. 県立中央病院・県立津川病院（中小規模）での研修（2.3.合わせて 1.5-2 年）》**

1) 本プログラムは新潟県・病院局発信の内科専門医研修プログラムであり、がんセンターを含む新潟県立 15 病院における共同プログラムの一環としての研修と位置づけられる。
2) 本プログラムにおける研修では、地域中核県立病院での内科スタッフとして、また地域診療スタッフの活躍が期待される。
3) 背景にも記したように悪性腫瘍はもはや common disease の代表であり、地域病院においても多数の症例の治療を担当する必要があるが、がんセンター・大學病院で習得した知識を生かし、かつ一般内科としての研修も同時に実施可能な環境であるため、内科専門医としての修練を積むには最適の機会である。

**【専門医制度への対応】**

**1. 研修カリキュラム**

研修カリキュラムについては内科認定医・専門医、各分野認定医・専門医、臨床腫瘍専門医取得のためのカリキュラムを活用し、3 年間の研修中に資格試験受験可能な症例を経験する。

**2. 取得可能な専門医**

認定内科医（必須、本プログラム研修中に取得可能）、認定内科専門医

※本プログラム終了後、所定年限の研修継続が必要

分野別専門医として血液専門医、輸血学会認定医、呼吸器専門医、呼吸器内視鏡専門医、消化器病学会専門医、消化器内視鏡学会専門医、大腸肛門病学会専門医、肝臓学会専門医、感染症専門医、など

**3. 主な学会** ※各自の希望により適宜入会する

日本内科学会（必須）、日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本食道学会、日本胃癌学会、日本大腸肛門病学会、日本肝臓学会、日本消化器集団検診学会、日本超音波医学会、日本呼吸器学会、日本肺癌学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本血液学会、日本輸血学会、アメリカ癌学会（AACR）、アメリカ臨床腫瘍学会（ASCO）、アメリカ血液学会（ＡＳＨ）、国際胃癌会議(IGCC)など

**【研修プログラム終了後について】**

内科専門医研修 3 年間終了後の選択としては、

1. 大学病院各分野の医局に入局し、腫瘍内科および各分野の専門医としての臨床技能の向上に努め（5 年終了時点で各分野専門医、臨床腫瘍学会専門医の認定試験受験可能となる）、臨床大学院において臨床研究を実施し、博士号取得を目指す。
2. 大学院基礎分野に所属し、基礎研究に従事する。
3. 当院を含めた県立病院での臨床研修を継続する。この場合も社会人大学院に入学し、臨床研究をまとめて論文化し、博士号取得を目指す。

などが想定される。

本プログラムは 3 年で終了するため、終了時には初期臨床研修も含め 5 年の研修が終了することとなる。現在の内科学は日進月歩であり、各分野とも目覚しい進歩を遂げている。各自の将来の専門分野を決定するには色々な分野を経験することが必要であるが、腫瘍内科学を基礎として各自が本当に自分の将来専攻したい専門分野を決定していただきたい。その意味で、研修終了後の進路については種々の option があり、各自の実力を遺憾なく発揮できるように back up していく方針である。

**新潟県立がんセンター新潟病院**
**内科専門研修プログラム**

## 1. 理念・使命・特性

### 理念【整備基準 1】

1) 本プログラムは，新潟県のがん診療拠点病院としてがん診療の中心的な総合病院である新潟県立がんセンター新潟病院を基幹施設として，新潟県下越・中越・上越医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て新潟県の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され，基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として新潟県全域を支える内科専門医の育成を行います.

2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は，本プログラム専門研修施設群での 3 年間（原則基幹施設 1-1.5 年間＋連携施設 1.5 年間）に，豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します.

内科領域全般の診療能力とは，臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です．また，知識や技能に偏らずに，患者に人間性をもって接すると同時に，医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です．内科の専門研修では，幅広い疾患群を順次，経験してゆくことによって，内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに，疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります．そして，これらの経験を単に記録するのではなく，病歴要約として，科学的根拠や自己省察を含めて記載し，複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします.

### 使命【整備基準 2】

1) 新潟県新潟市医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として，１）高い倫理観を持ち，２）最新の標準的医療を実践し，３）安全な医療を心がけ，４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し，臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います.

2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も，内科専門医は常に自己研鑽を続け，最新の情報を学び，新しい技術を修得し，標準的な医療を安全に提供し，疾病の予防，早期発見，早期治療に努め，自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて，地域住民，日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います.

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います.
4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究，基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います.

**特性**

1) 本プログラムは，新潟県のがん診療拠点病院として新潟県におけるがん診療の中心的な急性期病院である新潟県立がんセンター新潟病院を基幹施設として，新潟県下越・中越・上越医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は原則として基幹施設 1-1.5 年間＋連携施設 1.5 年間の 3 年間になります．

2) 新潟県立がんセンター新潟病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします．

3) 基幹施設である新潟県立がんセンター新潟病院は，新潟県におけるがん診療拠点病院として、新潟県内のがん診療の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核であります．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．

4) 基幹施設である新潟県立がんセンター新潟病院での 1.5 年間（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 50 疾患群，150 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）に登録できます．そして，専攻医 1.5 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（別表 1「新潟県立がんセンター新潟病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．

5) 新潟県立がんセンター新潟病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修 3 年中の 0.5-1 年間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します．

6) 基幹施設である新潟県立がんセンター新潟病院での 1.5 年間と専門研修施設群での 1.5 年間（専攻医 3 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，180 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）に登録できます．可能な限り，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の経験を目標とします（別表 1 「新潟県立がんセンター新潟病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．

**専門研修後の成果【整備基準 3】**

内科専門医の使命は，１）高い倫理観を持ち，２）最新の標準的医療を実践し，３）安全な医療を心がけ，４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，

1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
2) 内科系救急医療の専門医

3）病院での総合内科（Generality）の専門医
4）総合内科的視点を持った Subspecialist
に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します．それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります．

新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します．そして，新潟県新潟市医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．また，希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です．

## 2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～7)により，新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 3 名とします．

1） 新潟県立がんセンター新潟病院：内科後期研修医は現在 3 学年併せて 0 名です．
2） 新潟県病院局管轄県立病院として雇用人員数に一定の制限があるので，募集定員の大幅増は現実性に乏しいです．
3） 剖検体数は 2022 年度 3 体，2023 年度 0 体 ,2024 年度 2 体，2025 年度 1 体です．

表．新潟県立がんセンター新潟病院診療科別診療実績

| 2024 年実績 | 入院患者実数（人/年） |
|---|---|
| 消化器内科 | 1,636 |
| 循環器内科 | 43 |
| 糖尿病・内分泌内科 | 8 |
| 腎臓内科 | 0 |
| 呼吸器内科 | 952 |
| 神経内科 | 0 |
| 血液内科 | 382 |
| 救急科 | 0 |

4） がんセンター病院という性格上、代謝，内分泌，腎臓， 循環器,神経　救急領域の入院患者は極めて少数ですが、この分野に関しては連携施設で十分な症例経験が可能です。
5） 13 領域の専門医のうち、7 領域で少なくとも 1 名以上在籍しています（P.16「新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修施設群」参照）．
6） 1 学年 3 名までの専攻医であれば，専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群，120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です．
7） 専攻医 3 年目に研修する連携施設には，高次機能・専門病院 1 施設，地域基幹病院 2 施設および地域医療密着型病院 1 施設，計 4 施設あり，専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です．

8) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群，160 症例以上の診療経験は達成可能です.

## 3. 専門知識・専門技能とは

1) 専門知識【整備基準 4】［「内科研修カリキュラム項目表」参照］
専門知識の範囲（分野）は，「総合内科」，「消化器」，「循環器」，「内分泌」，「代謝」，「腎臓」，「呼吸器」，「血液」，「神経」，「アレルギー」，「膠原病および類縁疾患」，「感染症」，ならびに「救急」で構成されます.
「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている，これらの分野における「解剖と機能」，「病態生理」，「身体診察」，「専門的検査」，「治療」，「疾患」などを目標（到達レベル）とします.

2) 専門技能【整備基準 5】［「技術・技能評価手帳」参照］
内科領域の「技能」は，幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた，医療面接，身体診察，検査結果の解釈，ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します．さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります．これらは，特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません.

## 4. 専門知識・専門技能の習得計画

1) 到達目標【整備基準 8～10】（別表 1 各年次到達目標　参照）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．内科領域研修を幅広く行うため，内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります．そこで，専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します.

○専門研修（専攻医）１年:
- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，少なくとも 20 疾患群，60 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します．以下，全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます.
- 専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します.
- 技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医とともに行うことができます.
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います.

○専門研修（専攻医）２年:
- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，通算で少なくとも 45 疾患群，120 症例以上の経験をし，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します.

・専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）への登録を終了します.
・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます.
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる
・360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします.

○専門研修（専攻医）３年:
・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します.
・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します.
・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます．査読者の評価を受け，形成的により良いものへ改訂します．但し，改訂に値しない内容の場合は，その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します.
・技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができます.
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります.

専門研修修了には，すべての病歴要約 29 症例の受理と，少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします．日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します.

新潟県立がんセンター新潟病院内科施設群専門研修では，「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は３年間（基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を１年単位で延長します．一方でカリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます.

2) 臨床現場での学習【整備基準 13】内科領域の専門知識は，広範な分野を横断的に研修し，各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます．内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し，それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記１）～5）参照）．この過程によって専門医に必要な知識，技術・技能を修得します．代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します．また，自らが経験することのできなかった症例については，カンファレンスや自己学習によって知識を補足します．これらを通じて，遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします.

① 内科専攻医は，担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下，主担当医として入院症

例と外来症例の診療を通じて，内科専門医を目指して常に研鑽します．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．

② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて，担当症例の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます．また，プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます．

③ 総合内科外来（初診を含む）と Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を少なくても週 1 回，1 年以上担当医として経験を積みます．

④ 救命救急センターの内科外来（平日夕方）で内科領域の救急診療の経験を積みます．

⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます．

⑥ 必要に応じて，Subspecialty 診療科検査を担当します．

3） 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

１）内科領域の救急対応，２）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解，３）標準的な医療安全や感染対策に関する事項，４）医療倫理，医療安全，感染防御，臨床研究や利益相反に関する事項，５）専攻医の指導・評価方法に関する事項，などについて，以下の方法で研鑽します．

① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会

② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設 2022 年度実績 8 回）

※ 内科専攻医は年に 2 回以上受講します．

③ CPC（基幹施設 2025 年度実績 1 回）

④ 研修施設群合同カンファレンス

⑤ 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：内科体験学習集談会，新潟地域救急医療合同カンファレンス，新潟市内科医会循環器研究会，新潟市内科医会呼吸器研究会，消化器病症例検討会）

⑥ JMECC 受講

※ 内科専攻医は必ず専門研修１年もしくは２年までに 1 回受講します．

⑦ 内科系学術集会（下記「７．学術活動に関する研修計画」参照）

⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会

など

4） 自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では，知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し，意味を説明できる）に分類，技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる），B（経験は少数例ですが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，または判定できる），C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類，さらに，症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した），B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した），C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています．（「研修カリキュラム項目表」参照）自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します．

① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信

② 日本内科学会雑誌にある MCQ

③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

など

5) 研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム【整備基準 41】

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，以下を web ベースで日時を含めて記録します.

・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します．指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います.

・専攻医による逆評価を入力して記録します.

・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います.

・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します.

・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します.

## 5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】

新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は，施設ごとに実績を記載した（「新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修施設群」参照）．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である新潟県立がんセンター新潟病院臨床研修センター~~（仮称）~~が把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します.

## 6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず，これらを自ら深めてゆく姿勢です．この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります.

新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設のいずれにおいても，

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする.
② 科学的な根拠に基づいた診断，治療を行う（EBM; evidence based medicine）.
③ 最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）.
④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う.
⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く.

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します．併せて，

① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う.
② 後輩専攻医の指導を行う.
③ メディカルスタッフを尊重し，指導を行う.

を通じて，内科専攻医としての教育活動を行います.

## 7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修施設群は基幹病院，連携病院のいずれにおいても，

① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）.

※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します.

② 経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行います.
③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います.
④ 内科学に通じる基礎研究を行います.
を通じて，科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします.
内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者２件以上行います.
なお，専攻医が，社会人大学院などを希望する場合でも，新潟県立がんセンター新潟病院内科専門医研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します.

## 8.コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で，知識，技能，態度が複合された能力です．これは観察可能であることから，その習得を測定し，評価することが可能です．その中で共通・中核となる，コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です.
新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設のいずれにおいても指導医，Subspecialty 上級医とともに下記１）～10）について積極的に研鑽する機会を与えます．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である新潟県立がんセンター新潟病院臨床研修センター~~（仮称）~~が把握し，定期的にE-mail などで専攻医に周知し，出席を促します.

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します.
① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師への指導
※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し，先輩からだけではなく後輩，医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます.

## 9.地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修施設群研修施設は新潟県下越・中越・上越医療圏の医療機関から構成されています.
新潟県立がんセンター新潟病院は，新潟県のがん診療拠点病院に指定されており、新潟県全体のがん診療の中心的な急性期病院であるとともに，地域との病診・病病連携の中核です．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，がん診療が主な使命ですが、コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます.

連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，高次機能・専門病院である新潟大学医歯学総合病院，魚沼基幹病院，地域基幹病院である新潟県立中央病院，および地域医療密着型病院である新潟県立津川病院で構成しています.

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．地域基幹病院では，新潟県立がんセンター新潟病院や新潟大学医歯学総合病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます.

地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します.

最も距離が離れている新潟県立中央病院は新潟県・上越市内にあるが，新潟県立がんセンター新潟病院から電車を利用して，2 時間弱程度の移動時間であり，移動や連携に支障をきたす可能性は低いです.

## 10.　地域医療に関する研修計画【整備基準 28, 29】

新潟県立がんセンター新潟病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています.

新潟県立がんセンター新潟病院内科施設群専門研修では，主担当医として診療・経験する患者を通じて，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます.

## 11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】

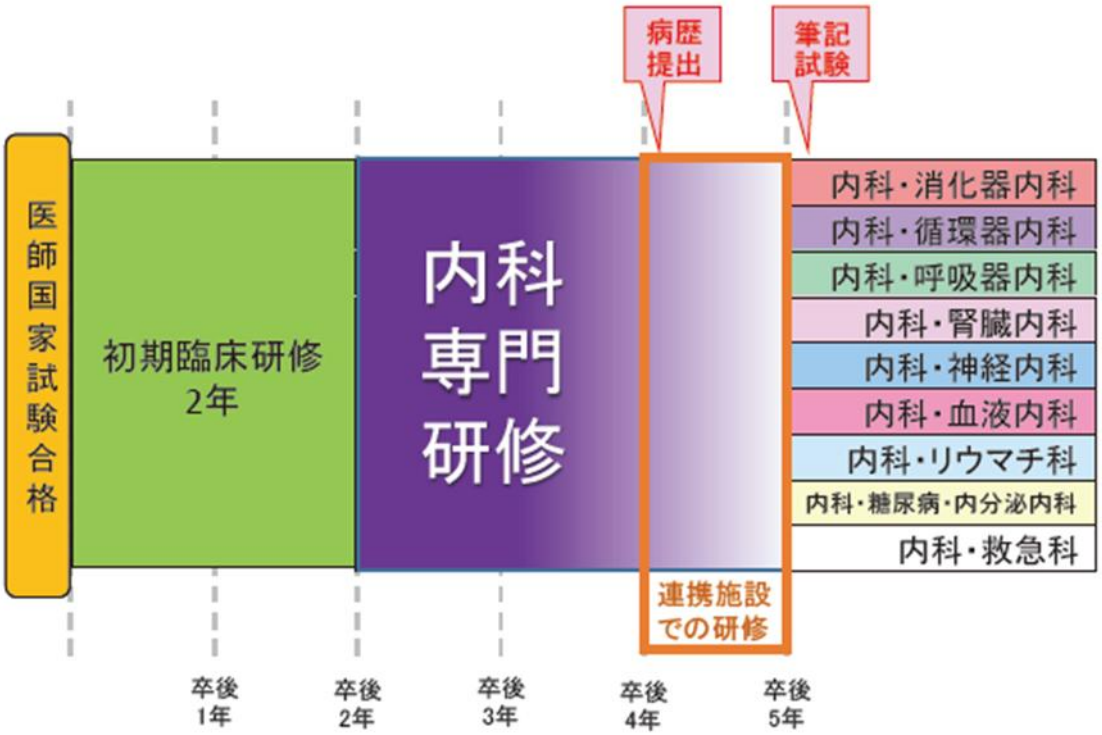



図 1. 新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム（概念図）

原則として、基幹施設である新潟県立がんセンター新潟病院内科で，専門研修（専攻医）1.5 年、連携施設で 1.5 年間の専門研修を行います（図 1 は概略ですので、前述のプログラムの特徴と概略の予定表も参照のこと）．

研修開始時、専攻医 1，2 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，その後の専門研修（専攻医）の研修施設を調整し決定します．図 1 はあくまでもイメージ図です．なお，研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）．

## 12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19～22】

(1) 新潟県立がんセンター新潟病院臨床研修センターの役割

・新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います．

・新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の研修手帳 Web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します．

・3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します．

・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します．また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します．

・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.
・年に複数回（8 月と 2 月，必要に応じて臨時に），専攻医自身の自己評価を行います．その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され，1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って，改善を促します.
・臨床研修センターは，メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月，必要に応じて臨時に）行います．担当指導医，Subspecialty 上級医に加えて，看護師長，看護師，臨床検査・放射線技師・臨床工学技士，事務員などから，接点の多い職員 5 人を指名し，評価します．評価表では社会人としての適性，医師としての適正，コミュニケーション，チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します．評価は無記名方式で，臨床研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し，その回答は担当指導医が取りまとめ，日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）．その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され，担当指導医から形成的にフィードバックを行います.
・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します.

(2) 専攻医と担当指導医の役割
・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます.
・専攻医は web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録し，担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.
・専攻医は，1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群，60 症例以上の経験と登録を行うようにします．2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群，120 症例以上の経験と登録を行うようにします．3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群，160 症例以上の経験の登録を修了します．それぞれの年次で登録された内容は都度，担当指導医が評価・承認します.
・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します.
・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います.
・専攻医は，専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します．担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行う必要があります．専攻医は，内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき，専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します．これによって病歴記載能力を形成的に深化させます.

(3) 評価の責任者年度ごとに担当指導医が評価を行い，基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します．その結果を年度ごとに新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修管理委員会で検討し，統括責任者が承認します．

(4) 修了判定基準【整備基準 53】

1) 担当指導医は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容を評価し，以下ⅰ)～vi)の修了を確認します．

i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は20症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録済み（別表 1「新潟県立がんセンター新潟病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．

ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

iii) 所定の 2 編の学会発表または論文発表

iv) JMECC 受講

v) プログラムで定める講習会受講 vi) 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性

2) 新潟県立がんセンター新潟病院内科専門医研修プログラム管理委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し，研修期間修了約 1 か月前に新潟県立がんセンター新潟病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います．

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」，「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います．なお，「新潟県立がんセンター新潟病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】と別に示します．

## 13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37～39】

### （「新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修管理員会」参照）

1) 新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

i) 内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります．内科専門研修プログラム管理委員会は，統括責任者（臨床部長），プログラム管理者（臨床部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医），事務局代表者，内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科科長）院内主要部門委員および連携施設担当委員で構成されます．また，オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる（新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム管理委員会参照）．新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修管理委員会の事務局を，新潟県立がんセンター新潟病院臨床研修センターにおきます．

ii) 新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修施設群は，基幹施設，連携施設ともに内科専門研

修委員会を設置します．委員長 1 名（指導医）は，基幹施設との連携のもと，活動するとともに，専攻医に関する情報を定期的に共有するために，毎年 6 月と 12 月に開催する新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修管理委員会の委員として出席します．

基幹施設，連携施設ともに，毎年 4 月 30 日までに，新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います．

① 前年度の診療実績
   a) 病院病床数，b)内科病床数，c)内科診療科数，d) 1 か月あたり内科外来患者数，e)1 か月あたり内科入院患者数，f)剖検数
② 専門研修指導医数および専攻医数
   a)前年度の専攻医の指導実績，b)今年度の指導医数/総合内科専門医数，c)今年度の専攻医数，d)次年度の専攻医受け入れ可能人数．
③ 前年度の学術活動
   a) 学会発表，b)論文発表
④ 施設状況
   a) 施設区分，b)指導可能領域，c)内科カンファレンス，d)他科との合同カンファレンス，e)抄読会，f)机，g)図書館，h)文献検索システム，i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会，j)JMECC の開催．
⑤ Subspecialty 領域の専門医数
   日本消化器病学会消化器専門医数，日本循環器学会循環器専門医数，日本内分泌学会専門医数，日本糖尿病学会専門医数，日本腎臓病学会専門医数，日本呼吸器学会呼吸器専門医数，日本血液学会血液専門医数，日本神経学会神経内科専門医数，日本アレルギー学会専門医（内科）数，日本リウマチ学会専門医数，日本感染症学会専門医数，日本救急医学会救急科専門医数

## 14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18,43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を活用します．

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します．指導者研修（FD）の実施記録として，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います．

## 15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします．

専門研修（専攻医）中は基幹施設である新潟県立がんセンター新潟病院の就業環境および専連携施設の就業環境に基づき，就業します（「新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修施設群」参照）．

基幹施設である新潟県立がんセンター新潟病院の整備状況：

- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります．
- 新潟県立病院非常勤医師として労務環境が保障されています．
- メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります．
- ハラスメント委員会が新潟県庁・病院局に整備されています．
- 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています．

専門研修施設群の各研修施設の状況については，「新潟県立がんセンター新潟病院内科専門施設群」を参照．また，総括的評価を行う際，専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い，その内容は新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが，そこには労働時間，当直回数，給与など，労働条件についての内容が含まれ，適切に改善を図ります．

## 16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行います．逆評価は年に複数回行います．また，年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には，研修施設ごとに逆評価を行います．その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します．また集計結果に基づき，新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます．

2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス専門研修施設の内科専門研修委員会，新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，専攻医の逆評価，専攻医の研修状況を把握します．把握した事項については，新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します．

① 即時改善を要する事項
② 年度内に改善を要する事項
③ 数年をかけて改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項

なお，研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難である場合は，専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします．

・担当指導医，施設の内科研修委員会，新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし，新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して新潟県立がんセンター新潟病院内科専門医研修プログラムを評価します．

・担当指導医，各施設の内科研修委員会，新潟県立がんセンター新潟病院内科専門医研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし，自律的な改善に役立てます．状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます．

3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

新潟県立がんセンター新潟病院臨床研修センターと新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム管理委員会は，新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します．その評価を基に，必要に応じて新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラムの改良を行います．

新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します.

## 17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は，毎年７月から website での公表や説明会などを行い，内科専攻医を募集します．翌年度のプログラムへの応募者は，11 月 30 日までに新潟県立がんセンター新潟病院臨床研修センターの website の新潟県立がんセンター新潟病院医師募集要項（新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します．書類選考および面接を行い，翌年 1 月の新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し，本人に文書で通知します.

(問い合わせ先)新潟県立がんセンター新潟病院臨床研修センター

E-mail: masakoba19@niigata-cc.jp HP: https://www.niigata-cc.jp/

新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて登録を行います.

## 18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には，適切に日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します．これに基づき，新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます．他の内科専門研修プログラムから新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です.

他の領域から新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合，あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらに新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を認めます．症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります.

疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム終了要件を満たしており，かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば，研修期間を延長する必要はないものとします．これを超える期間の休止の場合は，研修期間の延長が必要です．短時間の非常勤勤務期間などがある場合，按分計算（1 日 8 時間，週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって，研修実績に加算します．留学期間は，原則として研修期間として認めません.

## 新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修施設群

## 研修期間：3 年間（基幹施設 1-1.5 年間＋連携施設 1.5-2 年間）

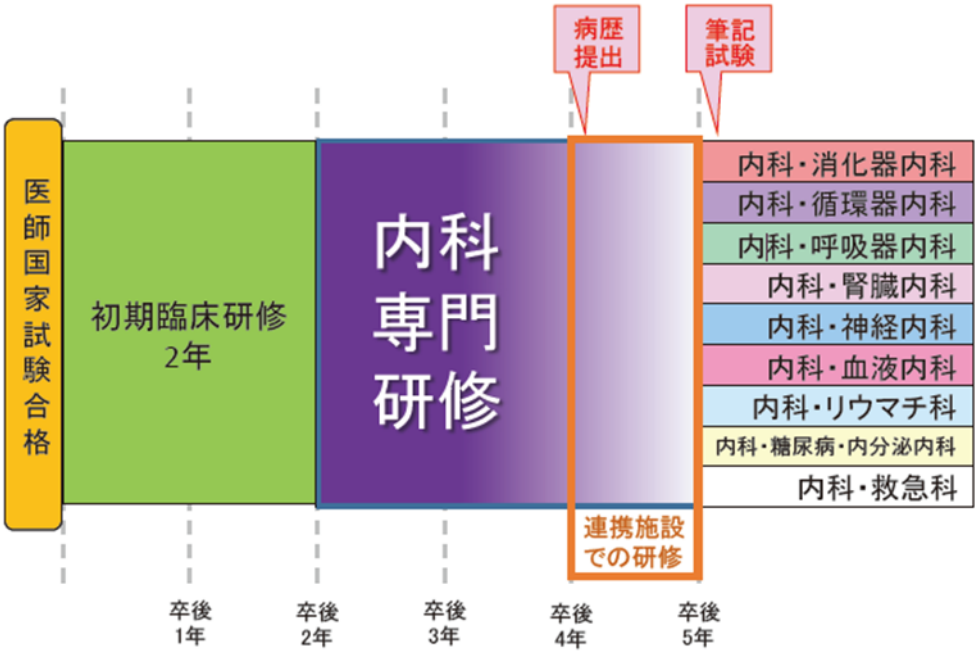



図 1.　新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム（概念図）

新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修施設群研修施設

表 1.　各研修施設の概要（令和 7 年 4 月現在、剖検数：令和 6 年度　）

| | 病院 | 病床数 | 内科系病床数 | 内科系診療科数 | 内科指導医数 | 総合内科専門医数 | 内科剖検数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基幹施設 | 新潟県立がんセンター新潟病院 | 404 | 107 | 7 | 9 | 11 | 2 |
| 基幹施設 | 新潟大学医歯学総合病院 | 827 | 201 | 10 | 86 | 83 | 9 |
| 連携施設 | 魚沼基幹病院 | 454 | 189 | 7 | 8 | 11 | 3 |
| 連携施設 | 新潟県立中央病院 | 530 | 250 | 4 | 15 | 15 | 7 |
| 連携施設 | 新潟県立津川病院 | 42 | 42 | 4 | 1 | 1 | 0 |
| 研修施設合計 | | 2, 446 | 789 | 32 | 119 | 121 | 21 |

表 2.　各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

| 病院 | 総合内科 | 消化器 | 循環器 | 内分泌 | 代謝 | 腎臓 | 呼吸器 | 血液 | 神経 | アレルギー | 膠原病 | 感染症 | 救急 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 新潟県立<br>がんセンター新潟院 | ○ | ○ | △ | △ | △ | × | ○ | ○ | △ | △ | × | △ | × |
| 新潟大学医歯学<br>総合病院 | × | ○ | ○ | × | × | ○ | ○ | × | ○ | × | ○ | ○ | ○ |
| 魚沼基幹病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | △ | △ | △ | ○ |
| 新潟県立中央病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 新潟県立津川病院 | ○ | × | × | × | × | × | △ | × | × | △ | × | × | △ |

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の可能性を 3 段階（○、△、×）に評価しました。
＜○：研修できる、　△：時に経験できる、　×：ほとんど経験できない＞

## 専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修施設群研修施設は新潟県内（下越・中越・上越 3 医療圏）の医療機関から構成されています．

新潟県立がんセンター新潟病院は，新潟県のがん診療拠点病院に指定されており、新潟県全体のがん診療の中心的な急性期病院であるとともに，地域との病診・病病連携の中核です．そこでの研修は，がん診療を主な使命として、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます．

連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，高次機能・専門病院である新潟大学医歯学総合病院，魚沼基幹病院，地域基幹病院である新潟県立中央病院，および地域医療密着型病院である新潟県立津川病院で構成しています．

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．

地域基幹病院では，新潟県立がんセンター新潟病院、新潟大学医歯学総合病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます．

地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します．

## 専門研修施設（連携施設）の選択

・研修開始時、専攻医 1，2 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に，研修施設を調整し決定します.

・病歴提出を終える専攻医 3 年目の 1 年間，連携施設あるいは基幹施設で研修をします（図 1）．なお，研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）.

## 専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

新潟県下越・中越・上越医療圏にある施設から構成しています．最も距離が離れている新潟県立中央病院は新潟県・上越市内にあるが，新潟県立がんセンター新潟病院から電車を利用して，2 時間弱程度の移動時間であり，移動や連携に支障をきたす可能性は低いです.

## 1) 専門研修基幹施設

### 新潟県立がんセンター新潟病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>1) 専攻医の環境 | ·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.<br>·研修に必要な図書室とインターネット環境があります.<br>·新潟県立がんセンター新潟病院常勤医師として労務環境が保障されています.<br>·監査・コンプライアンス室が新潟県・病院局本部に整備されています.<br>·メンタルストレスに適切に対処する部署があります.<br>·ハラスメント委員会が整備されています.<br>·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ·指導医が 8 名在籍しています（下記）.<br>·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります.<br>·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. |
| 認定基準<br>【整備基準 23/31】<br>3) 診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，消化器，肝臓，内分泌・代謝，糖尿病，呼吸器，血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.<br>がん診療に関しては、全ての癌腫に対する診療研修が可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>4) 学術活動の環境 | 日本内科学会あるいは内科関連領域の学会に年間で計 5 演題以上の学会発表を予定しています. |
| 指導責任者 | 内科（消化器内科）　副院長、予防センター長　小林　正明<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>　新潟県立がんセンター新潟病院は新潟県のがん診療拠点病院に指定されており、新潟県におけるがん診療の中心的施設です．急性期病院でもあり，文字通り新潟県における内科医療の中心として診療，研究，教育の 3 領域に関わっています．内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います. |
| 指導医数<br>（常勤医） | 一般社団法人日本内科学会総合内科専門医 11 名、<br>一般社団法人日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、<br>一般社団法人日本循環器学会循環器専門医 1 名、<br>一般財団法人日本消化器病学会消化器病専門医 9 名、<br>一般社団法人日本胆肝膵外科学会高度技能専門医 1 名、<br>一般社団法人日本胆肝膵外科学会高度技能指導医 1 名、<br>一般社団法人日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 7 名、<br>一般社団法人日本肝臓学会専門医 5 名、<br>一般社団法人日本東洋医学会漢方専門医 3 名、<br>特定非営利活動法人日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 1 名、<br>特定非営利活動法人日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2 名、<br>特定非営利活動法人日本臨床腫瘍学会がん薬物療法指導医 2 名<br>日本内科学会指導医 8 名<br>日本消化管学会胃腸科専門医 1 名<br>日本胆道学会認定指導医 2 名<br>日本食道学会食道科認定医 1 名<br>日本呼吸器学会呼吸器指導医 2 名 |

| | |
|---|---|
| 外来・入院患者数 | 外来：　17,715 名（1 ヵ月平均、R6 年度　実数）<br>入院：　7,983 名（1 ヵ月平均、R6 年度　実数） |
| 経験できる疾患群 | 13 領域 70 疾患群のうち、救急、循環器、腎臓、内分泌，代謝，アレルギー分野の 22 疾患群以外の、48 疾患群を経験する事が可能となっています. |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます. |
| 経験できる地域医療・診療連携 | がん診療拠点病院としてがん医療を中心に学ぶことになりますが，病診連携、病病連携、在宅支援なども経験できます. |
| 学会認定施設<br>（内科系） | 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設<br>日本呼吸器学会認定施設　呼吸器内視鏡認定施設<br>日本感染症学会認定施設<br>日本アレルギー学会認定施設<br>日本臨床腫瘍学会認定施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本臨床腫瘍学会<br>日本神経学会認定教育施設<br>脳卒中学会研修教育病院<br>日本糖尿病学会<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本消化器内視鏡学会指導施設<br>日本内分泌学会<br>日本動脈硬化学会<br>日本血液学会<br>日本臨床腫瘍学会<br>日本輸血細胞治療学会<br>日本造血細胞移植学会 |

## 2) 専門研修連携施設

1．新潟大学医歯学総合病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>1)専攻医の環境 | ·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.<br>·研修に必要な図書室とネット環境があります.<br>·新潟大学医歯学総合病院レジデントとして労務環境が保障されています.<br>·メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります.<br>·ハラスメント委員会が整備されています.<br>·女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています.<br>·敷地内に院内保育所があり，利用可能です. |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>2)専門研修プログラムの環境 | ·指導医が 86 名在籍しています.<br>·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります.<br>医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度　医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>·CPC を定期的に開催（2024 年度実績 8 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. |
| 認定基準<br>【整備基準 23/31】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，消化器，循環器，腎臓，呼吸器，神経，膠原病，感染症および救急の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています．必要な場合は当該科と協議の上，研修期間を定めて研修を行うことができます. |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています（2024 年度実績 28 演題）．内科系学会発表数（2024 年度実績 318 演題） |
| 指導責任者 | 井口清太郎<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>新潟大学医歯学総合病院ではほぼ全ての内科領域を研修できるようになっています．また，サブスペシャリティ領域の研修も見据えた研修を行うことができ，内科専門医取得後のサブスペシャリティ専門医の取得にも有利となります.<br>　それぞれの専攻医がスムーズに専門医を取得できるよう環境を整備するために，内科に関連する 9 つの科が定期的に会合を持ち（内科系協議会），必要な事項を協議しています．また JMECC も開催しており，専攻医が受講しやすい環境も整備しています. |
| 指導医数<br>（常勤医） | 日本内科学会指導医 86 名，日本内科学会総合内科専門医 83 名，日本内科学会 27 名，日本内科学会認定内科医 32 名，日本消化器病学会消化器専門医 19 名，日本循環器学会循環器専門医 18，日本内分泌学会内分泌専門医 8 名，日本腎臓病学会専門医 13 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 16 名，日本血液学会血液専門医 7 名，日本神経学会神経内科専門医 27 名，日本アレルギー学会アレルギー専門医 3 名，日本リウマチ学会専門医 6 名，日本感染症学会感染症専門医 8 名，日本糖尿病学会専門医 15 名，日本老年医学会老年病専門医 2 名，日本肝臓学会専門医 18 名，日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 17 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 4 名ほか |
| 外来・入院患者数 | 外来：　375,058 名　（2024 年延べ数）<br>入院：　11,189 名　（2024 年実数） |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます. |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます. |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます. |

| | |
|---|---|
| 学会認定施設<br>（内科系） | 日本内科学会認定教育施設<br>日本循環器学会循環器専門医研修施設<br>日本不整脈学会不整脈専門医研修施設<br>日本心電図学会不整脈専門医研修施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設<br>日本超音波医学会研修指定施設<br>日本血液学会血液研修施設<br>日本内分泌学会認定教育施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本動脈硬化学会教育病院<br>日本甲状腺学会認定専門医施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本アレルギー学会アレルギー領域専門研修基幹施設<br>日本心身医学会研修診療施設<br>日本東洋医学会研修施設<br>日本心療内科学会基幹研修施設<br>日本呼吸器内視鏡学会認定施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本腎臓学会研修施設<br>日本老年医学会認定施設<br>日本リウマチ学会教育施設<br>日本透析医学会認定施設<br>日本高血圧学会認定施設<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本カプセル内視鏡学会暫定指導施設<br>日本消化管学会指導施設<br>日本認知症学会教育施設<br>日本神経学会教育施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本がん治療認定医機構研修施設<br>日本緩和医療学会認定研修施設<br>日本感染症学会研修施設<br>日本成人先天性心疾患学会連携修練施設 |

2．魚沼基幹病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>1)専攻医の環境 | ･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.<br>･研修に必要な図書室とインターネット環境があります.<br>･新潟県地域医療推進機構常勤医師として労務環境が保障されています.<br>･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）およびハラスメント委員会があります.<br>･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.<br>･敷地内に院内保育所があり，利用可能です. |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>2)専門研修プログラムの環境 | ･指導医は 8 名在籍しています（下記）.<br>･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者/診療情報管理室長，プログラム管理者/診療科部長；ともに総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります.<br>･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績　医療倫理，医療安全 4 回，感染対策 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2025 年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･地域参加型のカンファレンス（内科症例検討会；2024 年度実績 3 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･プログラムに所属する全専攻医に他院で実施される JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･日本専門医機構による施設実地調査に対応します. |
| 認定基準<br>【整備基準 23/31】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.<br>･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます.<br>･専門研修に必要な剖検（2023 年度 3 体、2024 年度 3 体）を行っています. |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>4)学術活動の環境 | ･臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています.<br>･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2024 年度実績 10 回）しています.<br>･治験管理室を設置し，必要に応じ受託研究審査会を開催します.<br>･毎年、日本内科学会講演会あるいは同地方会に演題発表（2024 年度実績：4 題）をしています. |
| 指導責任者 | 寺島健史（医療情報部長兼診療情報管理室長、新潟大学地域医療教育センター特任教授）<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>魚沼基幹病院は，新潟県魚沼医療圏の中心的な急性期病院であり，新潟県中越医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します.<br>主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を育成します. |
| 指導医数 | 日本内科学会総合内科指導医 3 名，日本内科学会総合内科専門医 8 名，日本循 |

| | |
|---|---|
| （常勤医） | 環器学会循環器専門医１名，日本内分泌学会内分泌指導医・専門医 1 名，日本腎臓病学会腎臓指導医・専門医２名，日本腎臓病学会腎臓専門医１名，日本肝臓学会肝臓指導医・専門医 2 名，日本肝臓学会肝臓専門医１名，日本透析医学会透析指導医・専門医 1 名、日本透析医学会透析専門医１名，日本糖尿病学会糖尿病指導医・専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器指導医・専門医 2 名，日本消化器病学会消化器病指導医・専門医 2 名，日本消化器病学会消化器病専門医 3 名，日本消化器内視鏡学会内視鏡専門医４名，日本神経学会神経内科指導医・専門医２名，日本神経学会神経内科専門１名ほか |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 16,664 名（1 ヶ月平均）　入院患者 10,257 名（1 ヶ月平均） |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患、入院を要する血液疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます. |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます. |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます. |
| 学会認定施設<br>（内科系） | 日本糖尿病学会認定教育施設 I<br>日本内分泌学会認定教育施設<br>日本高血圧学会高血圧認定研修施設<br>日本透析医学会教育関連施設<br>日本腎臓学会研修施設<br>日本内科学会認定教育関連病院<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本胆道学会認定指導施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本消化器病学会専門医制度認定施設<br>日本消化器内視鏡学会指導施設<br>日本病理学会研修協力施設　など |

3. 新潟県立中央病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>1)専攻医の環境 | 初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です.<br>·研修に必要な図書室とインターネット環境があります.<br>·新潟県立病院任期付常勤医師として労務環境が保障されています.<br>·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります.<br>·監査・コンプライアンス室が新潟県・病院局本部に整備されています.<br>·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています.<br>·敷地内に院内保育所があり，利用可能です. |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>2)専門研修プログラムの環境 | ·指導医が 15 名在籍しています（下記）.<br>·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります.<br>·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績　医療倫理 1 回，医療安全 2 回（各複数回開催），感染対策 4 回（各複数回開催））し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>·研修施設群合同カンファレンス（2025 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>·CPC を定期的に開催（2024 年度実績 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>·地域参加型カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えることができます. |
| 認定基準<br>【整備基準 23/31】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべてについて，定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 2 演題）をしています. |
| 指導責任者 | 船越和博　副院長<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>上越医療圏 25 万の中核病院で、3 次患者の治療を引き受けています．診療可能な病態はほぼ網羅し、治療を行っています. |
| 指導医数<br>（常勤医） | 日本内科学会指導医　15 名，日本内科学会総合内科専門医　15 名<br>日本消化器病学会消化器専門医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 3 名，<br>日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名，日本血液学会血液専門医 2 名，<br>神経内科専門医 2 名、救急科専門医 1 名、腎臓専門医 2 名ほか |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 8,769 名（1 ヶ月平均）　入院患者 5,566 名（1 ヶ月平均） |
| 経験できる疾患群 | 全ての疾患群を経験可能です. |
| 経験できる技術・技能 | 日常診療における必要な技術、技能は、習得可能です. |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 他院、診療所からの紹介、逆紹介を通じて、病診連携の実際を一見できます. |
| 学会認定施設<br>（内科系） | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設<br>日本消化器病学会専門医認定施設<br>日本消化器内視鏡学会指導施設<br>日本循環器学会認定研修施設<br>日本糖尿病学会認定研修施設<br>日本血液学会認定血液研修施設<br>日本腎臓学会認定研修施設<br>日本リウマチ学会教育施設 |

| | |
|---|---|
| | 日本臨床腫瘍学会認定施設 |

## 4. 新潟県立津川病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>1)専攻医の環境 | ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります.<br>·新潟県立病院常勤医師として労務環境が保障されています.<br>·メンタルストレスに適切に対処する部署（経営課職員担当）があります.<br>·監査・コンプライアンス室が新潟県・病院局本部に整備されています.<br>·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ·指導医が 1 名在籍しています（下記）.<br>·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります.<br>·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. |
| 認定基準<br>【整備基準 23/31】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，循環器，呼吸器，感染症，アレルギーおよび代謝の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています. |
| 指導責任者 | 原　勝人　院長<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>当院は救急告示もしていますが、月間約 60 件の訪問診療も行っています。在宅看取りも年間 4 件程度行っています。総合内科医としての研修及び在宅医療分野での十分な経験が積めると思います. |
| 指導医数<br>（常勤医） | 日本内科学会指導医　1 名，プライマリ・ケア連合学会認定指導医 1 名，<br>日本内科学会総合内科専門医　2 名，日本アレルギー学会専門医（内科）1 名，<br>臨床研修指導医 5 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 2,092 名（1 ヶ月平均）　入院患者 933 名（1 ヶ月平均） |
| 経験できる疾患群 | 高血圧症、糖尿病、その他の成人病、呼吸器ほぼ全般、アレルギー全般、心不全尿路感染症、胆道感染症、認知症、骨粗鬆症、廃用性症候群、寝たきり合併症など |
| 経験できる技術・技能 | 喘息患者管理，人工呼吸器管理，NPPB 管理，胸腔ドレーン管理，認知症患者診療,圧迫骨折患者診療，褥瘡患者診療など |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 訪問診療，巡回診療，在宅看取り，施設での看取り，検死，ナイトスクール，町診療所との連携会議など |
| 学会認定施設 | 無 |

## 新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム管理委員会

（令和 8 年 4 月現在）

新潟県立がんセンター新潟病院

小林正明（プログラム統括責任者，委員長，消化器内科分野責任者）
田中洋史（院長，呼吸器分野責任者）
錦織ゆか子（事務局代表，臨床研修事務担当）
関　義信（血液内科分野責任者，事務局代表）
谷　長行（内分泌・代謝内科分野責任者）
関　裕史（放射線科分野責任者）
竹之内辰也（皮膚科分野責任者）
田村恵美子（看護分野責任者）
斎藤由紀（セーフティーマネージメント責任者）
村山貴子（薬剤部門責任者）
小出由紀子（検査部門責任者）

連携施設担当委員

| | |
|---|---|
| 新潟大学医歯学総合病院 | 井口清太郎 |
| 魚沼基幹病院 | 寺島健史 |
| 新潟県立中央病院 | 船越和博 |
| 新潟県立津川病院 | 原　勝人 |

オブザーバー

内科専攻医代表 1
内科専攻医代表 2

整備基準 44 に対応

# 新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム
# 専攻医研修マニュアル

1) 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は，(1)高い倫理観を持ち，(2)最新の標準的医療を実践し，(3)安全な医療を心がけ，(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，

① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
② 内科系救急医療の専門医
③ 病院での総合内科（Generality）の専門医
④ 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します．それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります．

新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します．そして，

新潟県の特定医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．また，希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です．

新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム終了後には，新潟県立がんセンター新潟病院内科施設群専門研修施設群（下記）だけでなく，専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する，または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です．

2） 専門研修の期間

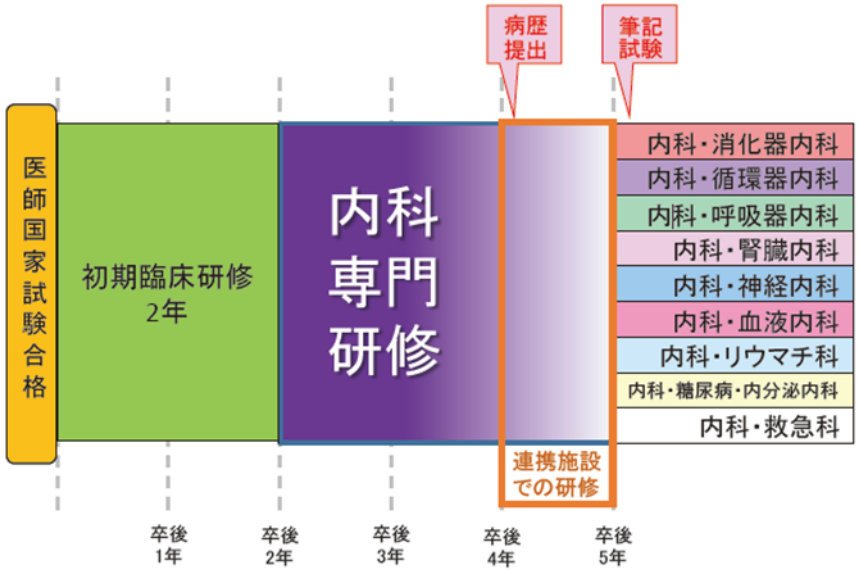



図 1.　新潟県立がんセンター新潟病院内科専門医研修プログラム（概念図）

基幹施設である新潟県立がんセンター新潟病院内科および連携施設で 3 年間の専門研修を行います（図１はイメージですので、プログラムの特徴と概略も参考のこと）.

3） 研修施設群の各施設名（「新潟県立がんセンター新潟病院研修施設群」参照）

基幹施設：　新潟県立がんセンター新潟病院

連携施設：　新潟大学医歯学総合病院
魚沼基幹病院
新潟県立中央病院
新潟県立津川病院

4） プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名

新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム管理委員会と委員名（「新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

指導医師名（作成予定）

5） 各施設での研修内容と期間

専攻医 1,2 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，その後の専門研修（専攻医）の研修施設を調整し決定します.

6） 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である新潟県立がんセンター新潟病院診療科別診療実績を以下の表に示します．新潟県立がんセンター新潟病院は新潟県のがん診療拠点病院であり、あらゆる悪性疾患を中心に診療しています.

| 2023 年実績 | 入院患者実数<br>（人/年） |
|---|---|
| 消化器内科 | 1,531 |
| 循環器内科 | 44 |
| 糖尿病・内分泌内科 | 13 |
| 腎臓内科 | 0 |
| 呼吸器内科 | 964 |
| 神経内科 | 0 |
| 血液内科 | 410 |
| 救急科 | 0 |

＊　がんセンター病院という性格上、代謝，内分泌，腎臓，循環器,神経，救急領域の入院患者は極めて少数ですが、この分野に関しては連携施設で十分な症例経験が可能です。

＊　13 領域の専門医のうち、7 領域で少なくとも 1 名以上在籍しています（P.16「新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修施設群」参照）.

＊　剖検体数は 2021 年度 0 体，2022 年度 3 体，2023 年度 0 体です.

7）年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

Subspecialty 領域に拘泥せず，内科として入院患者を順次主担当医として担当します．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します.

入院患者担当の目安（基幹施設：新潟県立がんセンター新潟病院での一例）

当該月に以下の主たる病態を示す入院患者を主担当医として退院するまで受持ちます.

専攻医 1 人あたりの受持ち患者数は，受持ち患者の重症度などを加味して，担当指導医，Subspecialty 上級医の判断で 5～10 名程度を受持ちます．感染症，総合内科分野は，適宜，領域横断的に受持ちます.

8）自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行います．必要に応じて臨時に行うことがあります.

評価終了後，1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け，その後の改善を期して最善をつくします．2 回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて，担当指導医からのフィードバックを受け，さらに改善するように最善をつくします.

9）プログラム修了の基準

①　日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を用いて，以下の ⅰ)～ⅵ)の修了要件を満たすこと.

ⅰ）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します．修了認定には，主担

当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録済みです（P.43 別表 1「新潟県立がんセンター新潟病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）.

ii）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されています.

iii）学会発表あるいは論文発表を筆頭者で２件以上あります.

iv）JMECC 受講歴が 1 回あります.

v）医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に2回以上受講歴があります．vi）日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性があると認められます.

② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを新潟県立がんセンター新潟病院内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し，研修期間修了約 1 か月前に新潟県立がんセンター新潟病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います.

〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は３年間（基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を１年単位で延長することがあります.

10） 専門医申請にむけての手順

① 必要な書類

i）日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書

ii）履歴書

iii）新潟県立がんセンター新潟病院内科専門医研修プログラム修了証（コピー）

② 提出方法

内科専門医資格を申請する年度の 5 月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します.

③ 内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで，日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります.

11） プログラムにおける待遇，ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については，各研修施設での待遇基準に従う（「新潟県立がんセンター新潟病院研修施設群」参照）.

12） プログラムの特色

① 本プログラムは，新潟県のがん診療拠点病院として新潟県のがん診療の中心的な役割を担う急性期病院である新潟県立がんセンター新潟病院を基幹施設として，新潟県下越・中越・上越医

療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は原則として基幹施設 1.5 年間＋連携施設 1.5 年間の３年間です．

② 新潟県立がんセンター新潟病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします．

③ 基幹施設である新潟県立がんセンター新潟病院は新潟県のがん診療拠点病院であり、あらゆる悪性疾患を中心に診療しています．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．

④ 基幹施設である新潟県立がんセンター新潟病院および連携施設での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，120 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます．そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P. 43 別表 1「新潟県立がんセンター新潟病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．

⑤ 新潟県立がんセンター新潟病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修 3 年目の 1 年間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します．

⑥ 基幹施設である新潟県立がんセンター新潟病院と専門研修施設群での 3 年間（専攻医 3 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします（別表１「※※市民病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．少なくとも通算で 56 疾患群，160 症例以上を主担当医として経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します．

13)　継続した Subspecialty 領域の研修の可否

・カリキュラムの知識，技術・技能を深めるために，総合内科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科検査を担当します．結果として，Subspecialty 領域の研修につながることはあります．

・カリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます．

14)　逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行います．逆評価は毎年 8 月と 2 月とに行います．その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧し，集計結果に基づき，新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます．

15)　研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

16)　その他

特になし.

整備基準 45 に対応

# 新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム
# 指導医マニュアル

1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

・1 人の担当指導医（メンター）に専攻医 1 人が新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます.

・担当指導医は，専攻医が web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録するので，その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.

・担当指導医は，専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群，症例の内容について，都度，評価・承認します.

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します.

・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います.

・担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行います.

2) 専門研修の期間

・年次到達目標は，別表 1「新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修において求められる「疾患群」，「症例数」，「病歴提出数」について」に示すとおりです.

・担当指導医は，臨床研修センターと協働して，3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.

・担当指導医は，臨床研修センターと協働して，6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します．また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.

・担当指導医は，臨床研修センターと協働して，6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.

・担当指導医は，臨床研修センターと協働して，毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行います．評価終了後，1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い，形成的に指導します．2 回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて，担当指導医はフィードバックを形成的に行って，改善を促します.

3) 専門研修の期間

・担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価を行います.

・研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録に基づいて，当該患者の電子カルテの記載，退院サマリ作成の内容などを吟味し，主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし，担当指導医が承認を行います.
・主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として，担当指導医は専攻医に研修手帳 Web 版での当該症例登録の削除，修正などを指導します.

4) 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の利用方法
・専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します.
・担当指導医による専攻医の評価，メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います.
・専攻医が作成し，担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します.
・専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します.
・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録，出席を求められる講習会等の記録について，各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します．担当指導医と臨床研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します.
・担当指導医は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容を評価し，修了要件を満たしているかを判断します.

5) 逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いた指導医の指導状況把握
専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いた無記名式逆評価の集計結果を，担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します．集計結果に基づき，新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

6) 指導に難渋する専攻医の扱い
必要に応じて，臨時（毎年 8 月と 2 月とに予定の他に）で，日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）を用いて専攻医自身の自己評価，担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い，その結果を基に新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い，専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます．状況によっては，担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います.

7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇
新潟県立がんセンター新潟病院給与規定によります.

8) FD 講習の出席義務
厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します.
指導者研修（FD）の実施記録として，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います.

9） 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）の活用

内科専攻医の指導にあたり，指導法の標準化のため，日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を熟読し，形成的に指導します.

10） 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

11） その他

特になし.

## 別表１　　各年次到達目標

| | 内容 | 専攻医3年修了時<br>カリキュラムに示す疾患群 | 専攻医3年修了時<br>修了要件 | 専攻医2年修了時<br>経験目標 | 専攻医1年修了時<br>経験目標 | ※5 病歴要約提出数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 分野 | 総合内科Ⅰ（一般） | 1 | 1※2 | 1 | | 2 |
| | 総合内科Ⅱ（高齢者 | 1 | 1※2 | 1 | | |
| | 総合内科Ⅲ（腫瘍） | 1 | 1※2 | 1 | | |
| | 消化器 | 9 | 5以上※1※2 | 5以上※1 | | 3※1 |
| | 循環器 | 10 | 5以上※2 | 5以上 | | 3 |
| | 内分泌 | 4 | 2以上※2 | 2以上 | | 3※4 |
| | 代謝 | 5 | 3以上※2 | 3以上 | | |
| | 腎臓 | 7 | 4以上※2 | 4以上 | | 2 |
| | 呼吸器 | 8 | 4以上※2 | 4以上 | | 3 |
| | 血液 | 3 | 2以上※2 | 2以上 | | 2 |
| | 神経 | 9 | 5以上※2 | 5以上 | | 2 |
| | アレルギー | 2 | 1以上※2 | 1以上 | | 1 |
| | 膠原病 | 2 | 1以上※2 | 1以上 | | 1 |
| | 感染症 | 4 | 2以上※2 | 2以上 | | 2 |
| | 救急 | 4 | 4※2 | 4 | | 2 |
| 外科紹介症例 | | | | | | 2 |
| 剖検症例 | | | | | | 1 |
| 合計※5 | | 70疾患群 | 56疾患群<br>（任意選択含む） | 45疾患群<br>（任意選択含む） | 20疾患群 | 29症例<br>（外来は最大7）※3 |
| 症例数※5 | | 200以上<br>（外来は最大20） | 160以上<br>（外来は最大16） | 120以上 | 60以上 | |

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて，「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること．

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが，他に異なる 15 疾患群の経験を加えて，合計 56 疾患群以上の経験とする．

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める．（全て異なる疾患群での提出が必要）

※4「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する．
例）「内分泌」2 例+「代謝」1 例，「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は，例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，その登録が認められる．

# 別表 2

新潟県立がんセンター新潟病院：内科各分野における週間研修予定

１）血液・化学療法部門

| 時間／曜日 | 8:30 | 11:50 | 13:00 | 16:10 |
|---|---|---|---|---|
| 月曜日 | 回診<br>患者紹介、病棟研修 | | 病棟研修、血液検査室研修<br>回診<br>入院症例カンファレンス | |
| 火曜日 | 回診<br>骨髄穿刺検査<br>病棟研修 | | 入院症例カンファレンス<br>病棟研修、病理検査室研修 | |
| 水曜日 | 回診<br>末梢血管細胞採取<br>無菌室研修 | | 無菌室症例カンファレンス・スタッフミーティング<br>回診 | |
| 木曜日 | 回診<br>骨髄穿刺検査<br>病棟研修 | | 入院症例カンファレンス<br>回診 | |
| 金曜日 | 回診<br>病棟研修<br>カルテの weekly summary | | 内科検討会 | |

２）呼吸器部門

| 時間／曜日 | 8:30 | 11:50 | 13:00 | 16:10 |
|---|---|---|---|---|
| 月曜日 | Orientation<br>患者紹介、病棟研修，外来化学療法 | | 病棟研修<br>呼吸器内科症例カンファレンス | |
| 火曜日 | 気管支鏡検査（内視鏡的治療） | | ＣＴガイド下経皮肺生検<br>術前症例カンファレンス（X線、ＣＴ読影） | |
| 水曜日 | 病棟研修 | | 病棟研修<br>術前術後カンファレンス | |
| 木曜日 | 気管支鏡検査（内視鏡的治療） | | 病棟実習（胸腔穿刺法など） | |
| 金曜日 | 病棟研修<br>カルテの weekly summary | | 内科検討会 | |

３）消化器部門

| 時間／曜日 | 8:30　9:00 | 11:50 | 13:00　14:00　17:00 |
|---|---|---|---|
| 月曜日 | Orientation　上部消化管内視鏡検査 | | 大腸内視鏡検査<br>病棟研修 |
| 火曜日 | 病棟回診　下部消化管内視鏡実習 | | ＰＥＩＴ研修<br>病棟研修 |
| 水曜日 | 病棟回診　腹部エコー検査 | | ＥＲＣＰ実習<br>病棟研修 |
| 木曜日 | 病棟回診　上部内視鏡検査 | | ＰＥＩＴ研修　内視鏡検討会<br>病棟研修 |
| 金曜日 | 病棟研修<br>カルテの weekly summary | | 内科検討会 |

angio、ＰＴＣＤ、食道静脈瘤硬化療法は午後から（不定期）

抄読会は不定期

4）循環器部門

| 時間<br>曜日 | 8:00 | 11:30 | 13:30 | 15:00 | 19:00 |
|---|---|---|---|---|---|
| 月曜日 | オリエンテーション<br>担当症例の割当て、回診、病棟研修 | | 生理検査室実習（心電図、ホルター、心エコー）、緊急対応、回診、総括 | | |
| 火曜日 | ブリーフィング、回診、血管確保、心筋シンチグラム検査実習、生理検査実習（心電図、ホルター、心エコー） | | 心臓カテーテル検査、回診、総括 | | |
| 水曜日 | ブリーフィング、回診、生理検査実習（心電図、ホルター、心エコー） | | 生理検査実習(トレッドミル負荷試験)、緊急対応、心エコー検討会、回診、総括 | | |
| 木曜日 | ブリーフィング、回診、血管確保、生理検査実習（心電図、ホルター、心エコー） | | 心臓カテーテル検査、回診、総括 | | |
| 金曜日 | ブリーフィング、担当症例発表、回診、心筋シンチグラム検査実習、生理検査実習生理検査実習（心電図、ホルター、心エコー） | | カルテの weekly summary、生理検査実習(トレッドミル負荷試験)、緊急対応、回診、総括、内科検討会（第１・第３） | | |

5）内分泌部門

| 時間<br>曜日 | 8:30 | 11:50 | 13:00 | 19:00 |
|---|---|---|---|---|
| 月曜日 | Orientation<br>患者紹介、病棟実習 | | 内分泌カンファレンス（西７）<br>甲状腺エコー，病棟回診 | |
| 火曜日 | 病棟研修、外来研修 | | 病棟回診 | |
| 水曜日 | 病棟研修、外来研修 | | 甲状腺エコー<br>病棟回診 | |
| 木曜日 | 病棟回診 | | | |
| 金曜日 | 病棟研修、外来研修<br>カルテの weekly summary | | 甲状腺エコー、内科検討会 | |

○新潟県立がんセンター新潟病院内科専門研修プログラム　４．専門知識・専門技能の習得計画に従い、内科専門研修を実践します。

・上記はあくまでも例：概略です。
・内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
・入院患者診療には、内科と各診療科（Subspecialty)などの入院患者の診療を含みます。
・日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科（Subspecialty)の当番として担当します。
・地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。